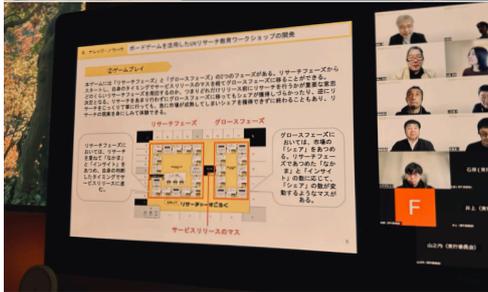


2023 Annual Report

Human Centered Design Organization



アニュアルレポート2023

2023年度 (2023年4月1日～2024年3月31日)

特定非営利活動法人
人間中心設計推進機構



目次

理事長からの挨拶：HCD-Netのミッション・中期目標からの方針	1
広報社会化事業領域	3
教育事業領域	4
ビジネス支援事業領域	5
研究事業領域	6
関西支部／東海支部	7
HCD専門資格認定センター	8
HCD倫理規定検討ワーキンググループ／ウェブワーキンググループ	9
イベント一覧	10
ピックアップイベント	12
決算報告 2023年度 活動計算書	13
2023年度 計算書類の注記	14
2023年度 貸借対照表	15
2023年度 財産目録	16
組織図／正会員数推移	17
機構役員一覧／賛助会員一覧	18

本アニュアルレポートに記載の人物名はすべて敬称略としています。
また、会社名、各製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

理事長からの挨拶： HCD-Netのミッション・中期目標からの方針

HCD-Netのミッション

特定非営利活動法人 人間中心設計推進機構（以下、HCD-Net）は、2005年に設立された「HCD (Human Centered Design: 人間中心設計/人間中心デザイン)」(以下、HCD)のあり方を追求する団体組織であり、コミュニティです。当初は、モノづくりにおけるユーザビリティ(使い勝手)を追求する専門家たちの集まる場としてスタートしましたが、近年ではサービスづくりやコトづくりに関わるさまざまな分野から、仕事の進め方や組織・企業のあり方に至るまでに、その専門領域の幅を広げてきました。

HCD-Netが、その設立の当初から掲げているミッションは、「HCDに関する学際的な知識・経験を集め、産学を超えた人間尊重の英知を束ね、HCDを導入し、活用するために必要なさまざまな知識や方法を適切に提供する」とした壮大なものとなっています。そして、このミッションを達成するためのスローガンが、「多くの人々が便利に快適に暮らせる社会づくりへの貢献」、「経済の発展への寄与」、「豊かでストレスのない実りある社会の実現」の3つです。

このようなミッションとスローガンの下、私たちの活動への期待のみならず、存在そのものに対する重要性が、近年では益々高まっています。例えば官公庁における調達仕様書の中で「HCD 専門家の有無」が問われるようになったことや「HCD プロセス」が盛り込まれるようになったこと、高校生の必修科目である「情報」の中に「HCD」の重要性が記載されるようになったことなどが、その現れといえるでしょう。まさに、従来の「専門家のためのHCD」から、今や「すべての人々にとってのHCD」といった時代が訪れようとしているのです。

こういった機運の中、HCD-Netでは2023年度から3ヶ年の中期目標として、以下の5つの項目を掲げました。

1. 次世代HCD-Netに向けたビジョンの構築
2. HCDの再定義とその国内外に向けた発信
3. 社会的な団体としての役割の遂行
4. 各事業部・委員会や関連団体との積極的な連携の推進
5. 個人会員および賛助会員の満足度の向上

これらの項目は、先の社会からの期待に応えるべく、「3. 社会的な団体としての役割の遂行」を中核に据えながら、「未来を見据えること」と「(現況における)基盤を整えること」によって構成されています。「未来を見据えること」の項目としては、「1. 次世代HCD-Netに向けたビジョンの構築」と「2. HCDの再定義とその国内外に向けた発信」を掲げ、「基盤を整えること」の項目としては、「4. 各事業部・委員会や関連団体との積極的な連携の推進」、「5. 個人会員および賛助会員の満足度の向上」を掲げています。



中期目標 (2023-2025)

この中期目標の最終年度(2025年度)には、永続的な活動を目指す組織体として節目となる「創設20周年」を迎えます。その節目に向けた中期目標の初年度にあたった2023年度は、HCD-Netの活動において過渡期となる1年でした。この5つの目標の個々について、2023年度の目標を振り返りながら、2024年度に向けたアップデートの内容をご紹介します。

● 1. 次世代HCD-Netに向けたビジョンの構築

最初に「未来を見据えること」の2つの目標から、「1. 次世代HCD-Netに向けたビジョンの構築」を確認します。2023年度は、下記の3つを掲げて活動して参りました。

- ・HCD-Net関係者・関係団体等へのヒアリングから未来に向けた各種検討・議論の開始
- ・実践型の研究団体(日本学術会議への登録を含む)としての側面の強化
- ・理事長・副理事長・理事・評議委員の役割・選定基準の明確化、事務局長または事務局担当理事の設置

これらのいずれの活動も道半ばにあることから、引き続きその活動を継続しつつも、2024年に向けては下記の3つへとアップデートいたします。

- ・HCD-Netフォーラムの年次大会としての実施(研究発表会との併催)
- ・広報活動(イベント、ウェブサイト、SNS)の基盤整備と研究活動(投稿・掲載論文、発表論文、SIG活動)の活性化
- ・20周年(2025年度)に向けた次世代HCD-Netのビジョン構築と諸活動の計画

● 2.HCDの再定義とその国内外に向けた発信

「未来を見据えること」の2つ目の目標は、「2. HCDの再定義とその国内外に向けた発信」です。ここでは、2023年度において、下記を掲げて活動して参りました。

- ・新しいHCDの定義(HCDBOK:HCD知識体系)の取りまとめとHCS共創機構との協業の推進
- ・HCDに関する諸情報の国内に向けた発信
- ・HCDに関する諸情報の海外に向けた発信

こちらの活動についても、そのすべての活動を継続しつつも、2024年では、より具体的な内容を掲げることにいたしました。

- ・非専門家のためのHCD基礎検定(旧HCD基礎知識体系)との積極的な連携と情報発信
- ・HCD倫理綱領の確立と幅広い領域に向けた情報発信
- ・行政・自治体からの公的な認知と法的な保護の獲得(認定事業および倫理綱領の公的なオーソライズ等)

● 3. 社会的な団体としての役割の遂行

「社会からの期待」に応えるための中核である「3. 社会的な団体としての役割の遂行」では、下記の内容を掲げて活動をして参りました。

- ・コンプライアンス規定(モラル規定を含む)の明言化と発信、倫理綱領の確立と発信
- ・団体の各種コンテンツなどの知財や著作権の扱いに関する整備
- ・社会や市場に向けたHCD認定専門家事業の継続と発展

いずれも大事なテーマ群であるため、引き続きの検討と注力に取り組みながら、2024年では、HCD-Netの実情により即した活動課題をテーマとして掲げることにいたしました。

- ・地方に向けた活動への注力(関西・東海の活性化とその他地域の開拓)
- ・学び合う仕組みづくりなど教育機会の提供と各種業界を支えるエキスパートの交流促進
- ・従来からの事業活動の安定的な継続と発展的な活動・取り組みへの注力

● 4. 各事業部・委員会や関連団体との積極的な連携の推進

「基盤を整えること」の2つの目標の1番目である「4. 各事業部・委員会や関連団体との積極的な連携の推進」では、2023年度は下記を掲げての活動を推進して参りました。

- ・既存の各活動の持続的な推進とより一層の連携活動の活性化
- ・各事業部・各委員会の共通目標の設定(ex. HCD認定専門家・スペシャリストの活動領域の拡張、業種・業界・職種・役割別の教育プログラム・イベントの企画・実施など)
- ・HCD認定専門家制度の安定運営とHCD基礎検定との連携

2024年度では、これらの活動を継続しながらも、「積極的な連携の推進」に注力するための基盤となる活動も目標として明示化しました。

- ・事務局の補強・強化と活事業部への支援体制の確立
- ・各事業部の活動を担う主力メンバーの補強、評議委員の活動の明確化と活性化
- ・関連団体(ex. 組込みシステム技術協会(JASA)、各種学会)や行政・自治体との積極的な連携

● 5. 個人会員および賛助会員の満足度の向上

「基盤を整えること」の2番目の目標は「5. 個人会員および賛助会員の満足度の向上」です。この目標では、5つの目標すべてにおける下支えとなる内容を掲げて、活動して参りました。

- ・HCD正会員・学生会員の増員と会員メリットの強化策への検討と実施
- ・HCD賛助会員の増員と賛助会員メリットの強化策への検討と実施
- ・会員からの多様なニーズに応えられる団体運営のための事務局体制の維持と強化

そして、2024年度以降は、「個人会員(HCD正会員・学生会員)」や「賛助会員(HCD賛助会員)」に加えて、「HCD専門家認定者(専門家・スペシャリスト)」を新たに明示的に加え、下記の活動を掲げています。

- ・HCD専門家認定者の受験者数の健全な拡充
- ・HCD正会員のメリットの検討・実施、学生の参加に向けた検討
- ・HCD賛助会員の現況把握と賛助会員メリットの検討・実施

以上の「5つの目標」からなる中期目標の1期目(2023年度)を、無事に終えることができました。2024年度においては、それらの目標と活動内容を礎としつつもアップデートに取り組み、来るべき20周年となる2025年度に向かってより一層邁進して参る所存です。

どうか本機構の主旨や諸活動に対するご理解と叱咤激励とを頂戴しながら、今後もより多くの皆さまの積極的なご参加を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

広報社会化事業領域

広報社会化事業部は、HCD-Net全体を横断した広報として活動しております。具体的な活動としては、HCD-NetフォーラムやHCD-Net AWARD、会員向けイベントであるHCD-Netサロンといったイベントの主催、会員向けニュースレターやHCD-Netアニュアルレポート、会員向けのパンフレットなどの発行、HCDライブラリなどの書籍の出版が挙げられます。

2023年度の活動

● HCD-Netフォーラム

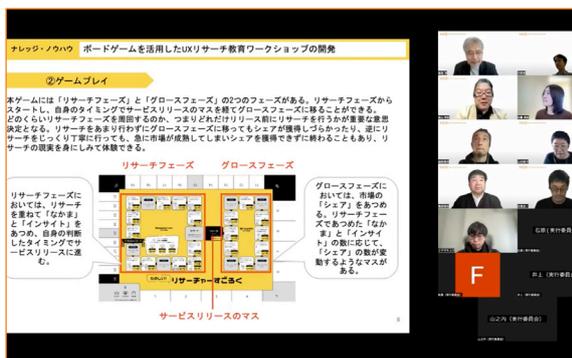
2023年度は、毎年開催していたHCD-Netフォーラムの開催を見送りました。その理由は、他のイベントとのスケジュール調整が難しく、開催日程を決められなかったことと、広報社会化事業部のリソース不足にあります。2024年度は理事会と連携しながらフォーラムのあり方やコンセプトを含めた内容を検討した上で、フォーラムを開催したいと考えております。

● HCD-Net AWARD

2023年度は2年ぶりにHCD-Net AWARDを開催しました。応募者は15組、最終選考に残ったエントリーが7組で、最終的に最優秀賞1件、優秀賞2件、審査員特別賞1件が選出されました。エントリーしていただいた内容は、2024年度にウェブサイトやイベントといった媒体でノウハウを発信していく予定です。AWARDの趣旨であるHCDのナレッジを広く社会に普及していくという考えにのっとり、HCD実践者の皆さんのお役に立てる発信に取り組みます。次回のAWARD開催は2025年度を予定しておりますが、今後のAWARDは賞を選出することに重きを置くのではなく、価値あるナレッジを広く社会に普及することを目的としていきたいと考えております。

● ウェブワーキンググループとの連携について

これまで広報社会化事業部とウェブワーキンググループは別組織として活動していました。元々、HCD-Netのウェブ制作&運用に関する活動は広報社会化事業部の中で行われていたのですが、事業部の規模が大きくなりウェブワーキンググループを独立した組織として分けることになりました。2024年度は広報社会化事業部がHCD-Netの横断的な広報を担当するため各種機能を整理していく予定となっており、これに伴いウェブワーキンググループというウェブ制作&運用機能を広報社会化事業部の中に取り込み、広報活動とウェブサイト運用の連携を強化していきます。



HCD-Net AWARD 最終審査風景の様子



HCD-Net AWARD の表彰式



2022年度のアニュアルレポート



教育事業領域

教育事業部のミッションは、HCD/UXDに関する知見の体系化、およびその教育を受ける機会を提供することです。ある程度のまとまった知識・学び方などを伝えるセミナーを企画・運営しています。また、学び合う仕組みを試行しています。

2023年度の活動

2023年度の重点方針である以下の2点に軸足を置き、活動いたしました。

● HCDに関する知識・学習体験の継続的提供

直近の数年で教育コンテンツとして定番化しつつある講座を中心としたセミナーやイベントを企画・開催いたしました。講座・セミナーでは、UXデザイン連続セミナーを実施。2023年度もチューターは教育事業部メンバーに加えて、過去のセミナー受講者に担当していただきました。

・「UXデザイン連続セミナー(全6回)」井登友一

※: 詳細は、『「UXデザイン連続セミナー 2023」開催レポート』をご覧くださいませ

<https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2035.html>

同様に2022年より継続開講した「エキスパートレビュー」のセミナーでは、2022年度の参加メンバーに加え、教育事業部ワーキンググループの方々にも演習のテーブルファシリテーターとして協力いただきました。

・「エキスパートレビュー～ユーザビリティの専門知識に基づく評価を学ぶ～」伊藤泰久

※: 詳細は、『「エキスパートレビュー～ユーザビリティの専門知識に基づく評価を学ぶ～」開催レポート』をご覧くださいませ

<https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2071.html>

● 学び合う仕組みの検討と試行

6月には、オンラインツールoViceを活用し、新たに資格保有者となられた方々を中心に交流イベントを実施。各事業部の有志などによるテーマ別のテーブルで活発に対話がなされていました。

・「ワイワイしましょう！ 人間中心設計の専門家・スペシャリストや会員とのオンライン交流会 ～ HCD-Net 新歓イベント～」

※: 詳細は、「ワイワイしましょう！人間中心設計の専門家・スペシャリストや会員とのオンライン交流会～HCD-Net新歓イベント～」開催レポート」をご覧くださいませ

<https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2007.html>

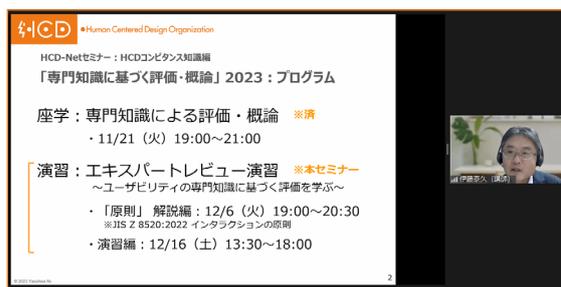
12月には、UXデザイン連続セミナー参加者が学びを振り返る会を開催しました。

・「UXデザイン連続セミナー座談会」

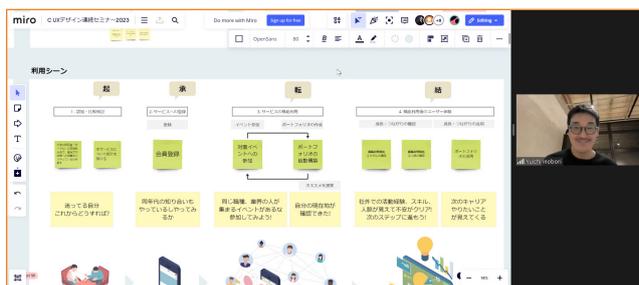
このほか、いろいろな方々にご登壇いただいて、知識や経験を分かち合うセミナーを開催しました。



「UXデザイン連続セミナー(全6回)」の様子



「エキスパートレビュー～ユーザビリティの専門知識に基づく評価を学ぶ～」の様子



「UXデザイン連続セミナー座談会」の様子

ビジネス支援事業領域

ビジネス支援事業部はHCD専門家のスキルを発揮できる環境づくり、およびHCD関連ツールの開発・提供を目的に以下の運営委員会と5つの専門委員会・ワーキンググループで活動しています。

2023年度の活動

● ビジネス支援事業部運営委員会

EdgeTech+ 2023 カンファレンスでは「顧客起点の価値創出を実現するHCD領域の特別講演」として3つの講演を実施しました。また、HCDビジネスシンポジウム2024「人間中心のAI社会～人とAIが協調するためのHCD～」を開催し、AI活用システムでのHCDの重要性を確認しました。

● HCDマインドセット醸成委員会

これまでのプロジェクトを通じた経験を踏まえ、企業規模や財務体力によって、HCDマインドセットに対する受け止め方が異なることがわかりました。そこでHCDマインドセットを受け入れやすい企業向けの方法論と、受け入れにくい企業向けの方法論の2つに分けて議論・検討を継続しています。

● HCD導入パターンワーキンググループ

HCDの組織導入で起こりがちな問題と解法のパターン化(可視化)を試みています。2023年度は「HCD導入パターン初版(※)」を発行し、23のパターンと、パターン活用の前提となるHCD組織成熟度モデルを公開しました。

※: 詳細は、『「HCD導入パターン」初版公開 HCD組織導入に係るノウハウをパターン・ランゲージ化』をご覧ください

https://www.hcdnet.org/hcd/column/materials_01/hcd-2051.html

● 自動運転社会におけるHAI(Human AI Interaction)検討委員会

【AI/デジタル技術】と【人】の関係に関する研究活動の第2期(2023年4月～2026年3月)をスタートしました。茨城県境町の自動運転バスにおいて実験された外向けHMIと歩行者とのコミュニケーションを現地観察し、社会実装における課題検討を行いました。EdgeTech+ 2023 カンファレンスでは、「システムアーキテクチャ構築における人間中心設計の視点」として「状況認識、役割、権限」の3つのキーワードを挙げ、人と機械が共通の状況認識と目標を持つことが重要であり、EdgeTechの領域においてもHCDに取り組んでもらうよう訴求しました。

● 「利用時品質」普及委員会

「人間工学JISハンドブック使いこなしセミナー(※)」では、HCD関連のJIS規格群が1冊にまとめられているJISハンドブックの利活用について解説しました。「『顧客経験を指向するインタラクション』出版記念セミナー」では、AIで自律的に動作するシステム(RIAS)と人とのインタラクションの考え方について全4回で解説しました。利用時品質談話会「美味さを測る(※)」では、日本酒を題材に杜氏が意図する酒質管理と科学的味覚分析の両面から美味さの定量化について話題を提供しました。東海大学辛島光彦研究室のゼミナールでは、企業の新卒採用サイトのユーザビリティ評価に基づき、その改善案をプロトタイプングして再評価するワークショップを実施し、HCDプロセスにおける反復の重要性を学生に体験してもらいました。

※: 詳細は、『「人間工学JISハンドブック使いこなしセミナー」開催レポート』、『第12回 利用時品質談話会「美味さを測る」日本酒の作り込みと飲酒体験のデザイン開催レポート』をご覧ください

<https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2010.html>

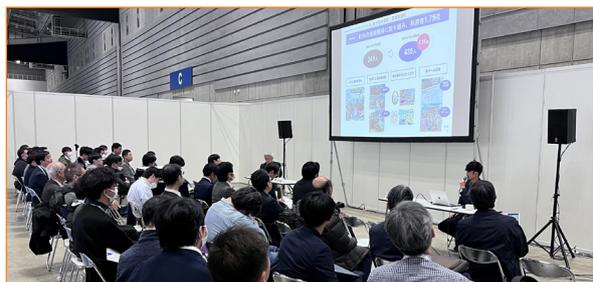
<https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2092.html>

● HCSA(Human Centered System Architecture)委員会

茨城県境町やみなとみらい地区のMaaSビジネスを題材としたHCSAの議論の場拡大の計画を継続しながら、デンマーク等の海外で開発されているツールの概観整理も含めたデジタルソリューションについての議論を開始し、ワークショップへの展開を検討・試行しています。



HCDビジネスシンポジウム2023の様子



EdgeTech+ 2023 カンファレンスの様子



研究事業領域

研究事業部のミッションは、人間中心設計に関する研究活動の活性化を図ることです。具体的には研究成果を発表する場として、研究発表会を年2回開催するとともに、機構誌を発行しています。また、機構誌に掲載する研究論文の査読プロセスを担う編集委員会を運営しています。さらに、研究活動の場としてSIGをサポートしています。

2023年度の活動

● HCD 研究発表会

春季(6月10日)は武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス、冬季(11月25日)は鹿児島女子短期大学の各会場およびZoomを用いたオンサイト・オンラインのハイブリッドイベントとして開催されました。今後は、順次、地方会場開催を増やす計画です。

【春季】

- 1件の基調講演と、14件の口頭発表、3件のポスター発表がありました。
- ・優秀講演賞:「国内サブスクリプションサービスの解約にみられるダークパターンUIの現状 - 個人データの残存の観点から -」(竹村玲音・飯尾淳／中央大学)
- ・奨励賞:「日本橋浜町マルシェをフィールドとした都市防災コミュニティ形成のための実証実験」(中村碧志・安達澄・富田豪・長谷川敦士／武蔵野美術大学)

【冬季】

- 20件の口頭発表と10件のポスター発表がありました。今回から実践報告のカテゴリを設けたこと、久しぶりの地方開催で参加者の利便性を高めるために東京にサテライト会場(芝浦工業大学豊洲キャンパス)を設けたことなど、活性化に向けた工夫を取り入れました。
- ・優秀講演賞:「大規模言語モデルおよび定量的ペルソナ作成手法による顧客ストーリーの生成」(菊地剛正／三菱UFJ信託銀行、高橋大志／慶應義塾大学大学院)
- ・奨励賞:「グラフィックデザインソフトと入出力デバイスを連携するプロトタイプング支援ツール「EKAKIO」の開発と実践」(影山勇一・河瀬裕志・小林直人・金原佑樹・西川拓輝／株式会社ソフトデバイス)

● 機構誌を発行

機構誌を2号(19巻2号、20巻1号)発行し、それぞれ1編、6編の査読付き論文を掲載しました。
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/hcd/-char/ja>

● SIG 活動

2023年度に社会基盤SIGが終了し、既設のSIGは全て終了します。次年度は、SIG活動の支援方を立案するとともに、新規SIGの募集を行います。

2023年度には例年通り2回の研究発表会をハイブリッド形式で開催し、発表者へのコメントフィードバックを慣例としました。また、論文誌も2号出すことができました。今後は、論文執筆に慣れない皆さんを支援するメンター制度を強化するなど、各種の論文執筆支援策を打ち出していく予定です。一方で、人的資源の不足も顕在化しており、新たなメンバーを求めています。



春季研究会の様子



冬季研究発表会の様子



冬季研究発表会は鹿児島で開催

関西支部

2013年1月25日の設立以来、関西を始めとする首都圏以外の地域において、HCDの実践を促進する目的でセミナーやワークショップを企画・主催しています。これまでは関西でのイベント開催がほとんどでしたので、関西支部設立10年を機に関西以外のエリアでも積極的にイベントを企画していく予定です。2024年度は九州・沖縄エリアでのイベントを増やしていきます。それ以外のエリアでの開催希望がありましたら、ぜひ事業部委員までお声がけください。

2023年度の活動

● イベント開催

・2024年1月、2月に九州・博多でイベントを開催しました。まだ、参加人数が少ないのですが、その分、講師と参加者や参加者同士で活発なディスカッションを行うことができました。関東や関西からのご参加も歓迎します。

・「合宿形式で学ぶ、写真KJ法ワークショップ」は毎年開催している人気のイベントです。よく分類法と間違えられて紹介されるKJ法ですが、このイベントは本来の発想法としてのKJ法を学べる機会となっています。アイデア発想に困っている方は、ぜひご参加ください。

〈2023年〉

6月 ・HCD 導入ノウハウ共有会

8月 ・合宿形式で学ぶ、写真KJ法ワークショップ

9月 ・HCD-Net 関西フォーラム2023「AIと人間中心設計」

11月 ・子供の『発想力』を鍛えるデザインワークショップ!～盗め!逃げる!高層ビルからのお宝ロブウェイ大作戦～

12月 ・子供の『発想力』を鍛えるデザインワークショップ!～飛んでかないでひつじさん～

・ユニバーサルデザイン事例発表会

〈2024年〉

1月 ・【九州】ユーザーの「心の声」を聴く技術～インタビュー調査の基本～

2月 ・～ビジョンと社会実装～ HCD-Net 理事長・副理事長講演会 + 人間工学会アーゴデザイン部会 Future Experience(FX)フォーラム

・【九州】"DX"の原義と世界の先端企業の事例、およびDXを推進するアプリ等をデザインするための技術"OOUI"の基礎



HCD-Net 関西フォーラム2023の様子



子供の『発想力』を鍛えるデザインワークショップ!の様子



【九州】ユーザーの「心の声」を聴く技術～インタビュー調査の基本～の様子

東海支部

東海支部は2020年4月に関西支部に続く2つ目の地方支部として設立しました。東海支部の活動メンバーは設立前も教育事業部として、名古屋を中心にHCDの基礎的な知識や実践的な学びを提供するセミナーを企画・主催していました。東海支部設立当初の2020年からの2年間は教育事業部の傘下での活動実績があります。ちょうど設立と同じ時期にコロナ禍になってしまったためオンラインでのイベントを数回開催し、2022年からは独立運営となりました。

● 今後の活動

東海支部では、地域のニーズにあったイベントの実施やHCDの実践情報の共有を活発に行っていきます。コロナ禍以降、開催ができていない対面でのイベントも復活させていく予定です。お近くの東海地域の方はぜひご参加ください。

✓ HCD 専門資格認定センター

HCD 専門資格認定センターは、「人間中心設計専門家」と「人間中心設計スペシャリスト」の資格制度を運営しています。資格制度が始まって15年を迎えました。過去の認定者は合計で約2230名（2024年4月実績）となります。

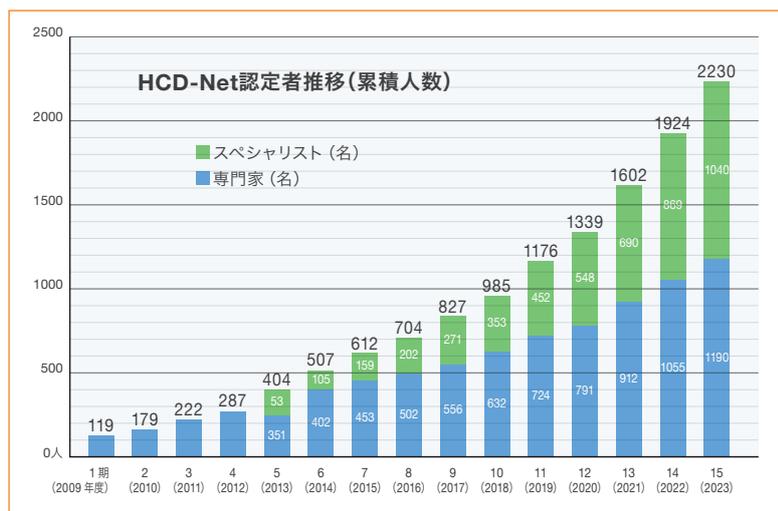
【専門資格 概要】

- ・実績にもとづく試験のため、スキルを客観的に証明できます。
- ・受験者にとっては、企業内で評価されやすい資格となります。
- ・企業にとっては、人材のスキルについて、第三者の客観的な保証を得ることができます。

2023年度の活動

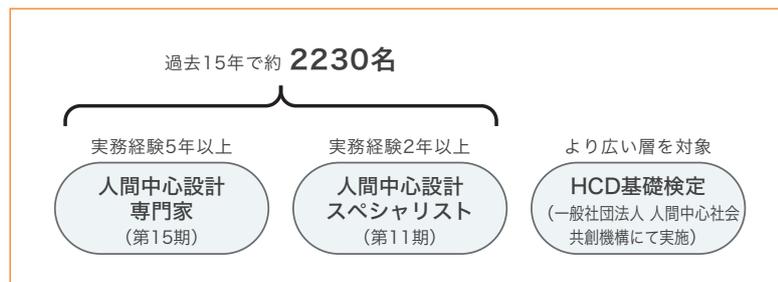
2023年度は「人間中心設計専門家」は第15期、「人間中心設計スペシャリスト」は第11期の認定試験を行いました。受験者数は年により若干の変動はあるものの伸長傾向を続けており、UXデザインやHCD分野における有用な資格としての地位を確立しています。特に「人間中心設計スペシャリスト」の認定者数が増加しています。UXデザインやHCD分野のベテランだけでなく、若手にも認知される資格になっています。

当センターでは、受験の申請書類の改善、説明会資料の改訂、更新審査の運用改善、業務のシステム化といった施策を進めています。また、受験についてカジュアルに相談できるイベントを多く設けることで、応募者の増加につながっています。



認定者数の推移

当センター内の「基礎知識検討ワーキンググループ」では、未経験者や学生などより広い層の認定を目指した新制度を数年にわたり検討し、2022年度より「HCD基礎検定」を発足しました。「HCD基礎検定」は、多数の受験者など運用が大規模になることが見込まれたため、既存のHCD-Netの体制だけでは対応が難しいと判断し、連携団体として「一般社団法人 人間中心社会共創機構（略称 HCS 共創機構）」を設立して運用に専念する体制としました。



3つの資格制度

HCD 倫理規定検討ワーキンググループ

HCD-Netでは、以前より理事会や各事業部でのイベント、活動などにおいて倫理に関する話題に取り組んできましたが、2020年度からは倫理規定検討ワーキンググループ(WG)を設置、活動しています。広範囲にわたる倫理の問題についてHCD-Netとしてどのように向き合っていくかなど議論を重ね、2022年4月1日に「Human Centered Design (HCD) 専門家 倫理規範第1版」を公開しました。

- ・HCD専門家 倫理規範 第1版 公開
<https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-1879.html>

その後、2022年度にはパネルディスカッションや下記国際学会での発表、また英語版の作成・公開を行い、活動の成果を発信してきました。

- ・国際会議
 Iio, J., Hasegawa, A., Iizuka, S., Hayakawa, S., Tsujioka, H. (2022)
 Ethical Guidelines for Human-Centered Design Activities,
 Vesa Salminen (eds) Human Factors, Business Management and Society.
 AHFE (2022) International Conference. AHFE Open Access, Vol 56.
 pp. 218–222, AHFE International, USA., New York & Online

2023年度の活動

2023年度は6月に新規メンバーを加えた情報交換会を実施し、その後、長谷川敦士副理事長をはじめメンバー個々に、メディアや研究会などにおいてHCD関連の倫理に関する情報発信・研究発表・普及を推進しました。2024年度はHCD-Netとしてのイベントや認知度を高める活動を計画しています。

ウェブワーキンググループ

ウェブワーキンググループは、理事長直下の組織として事務局と密に連携し、HCD-Netのウェブサイトおよびソーシャルメディアの運用を統括しています。ITやウェブサイト制作に豊かな知見を持つメンバーが参加し、ウェブサイトやソーシャルメディアの全体最適化を進めています。ウェブサイトのスマートフォン対応、レガシー化したインフラのモダン環境への移行、Slack 導入などをこれまでの数年間で進めてきました。

2023年度の活動

HCD-Netの公式ウェブサイトは、前回のリニューアルから5年以上が経過しており、サイト構造が現在のHCD-Netの運用に合わなくなってきていることや、CMS(コンテンツ管理システム)の老朽化が課題になっています。2023年度は、ウェブワーキンググループが推進役となり、ウェブサイトの新CMSへの移行とリニューアルを推進しました。



HCD-Net のウェブサイト

イベント一覧 1/2

2023年度はコロナ禍の影響が減り、対面式で行われるイベントがメインとなりました。交流会、セミナー、ワークショップ、フォーラムなど多彩なイベントが開催されています。

2023年 5月

ワイワイしましょう!人間中心設計の専門家・スペシャリストや会員とのオンライン交流会 ~HCD-Net新歓イベント 2023~

5月26日(金)

主催:HCD-Net教育事業部

6月

2023年度春季HCD研究発表会

6月10日(土)

- 竹村玲音(中央大学大学院)
- 飯尾淳(中央大学)
- 進藤美優(中央大学)
- 飯島万高(中央大学)
- 大垣瑠奏(中央大学)
- 川本健太(TOPPANエッジ株式会社)
- 指澤竜也(TOPPANエッジ株式会社)
- 長谷川敦士(株式会社ソシエント/武蔵野美術大学)
- 白澤洋一(ソシエント株式会社)
- 市川英子(アクセンチュアソング)
- 砂川洋輝(Code for Japan)
- 村田栞(株式会社エクソワイザー)
- 西村歩(株式会社MIMIGURI/東京大学大学院)
- 木原葵(認定NPO法人Cloud JAPAN)
- 田中尊彰(認定NPO法人Cloud JAPAN/慶應義塾大学大学院)
- 海野遥香(東京理科大学)
- 高柳翔太(東京理科大学)
- 金井希陽花(日本工務株式会社)
- 柳沼秀樹(東京理科大学)
- 山田菊子(株式会社ソーシャル・デザイナーズ・ベース)
- 日下部貴彦(株式会社ソーシャル・デザイナーズ・ベース)
- 三谷卓摩(慶應大学)
- 宮川愛由(京都大学)
- 相沢直人(ユースム株式会社)
- 奈良遠大(国土交通省北海道局)
- 飯尾直人(国土交通省北海道開発局)
- 藤村航行(国土交通省北海道開発局)
- 河野京(神戸和大学)
- 丸山幸伸(武蔵野美術大学/株式会社日立製作所)
- 安達澄(武蔵野美術大学)
- 富田豪(武蔵野美術大学)
- 中村碧志(武蔵野美術大学)
- 森山明宏(ユリカ株式会社)
- 伊東昌子(成城大学)
- 近藤恭代(YAFU株式会社)
- 寺村信介(株式会社リコロ)
- 林哲也(ユニー株式会社)
- 福山朋子(株式会社インテック)
- 和井田理科(株式会社JVCケンウッド・デザイン)
- 野島雄(一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会)
- 森下洋平(一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会)
- 矢口博之(東京電機大学)
- 川合俊輔(インクルーシブデザインスタジオCULUMU)
- 井原雅行(理化学研究所)
- 徳永弘子(理化学研究所)
- 村上宏樹(静岡岡白川病院)
- 猿渡進平(理化学研究所/静岡岡白川病院)
- 竹下一樹(静岡岡白川病院)
- 古賀昭彦(理化学研究所/帝京大学)
- 行平崇(理化学研究所/帝京大学)
- 久野真矢(理化学研究所/県立広島大学)
- 本江正茂(理化学研究所/東北大学)
- 本村章(株式会社ゆめみ)
- 村上雄太郎(株式会社ゆめみ)
- 多々良里美(ユニーグループ株式会社)
- 寺山晶子(ユニーグループ株式会社)
- 富崎止(ユニーグループ株式会社)
- 伊藤泰久(DN Technology & Innovation株式会社)
- 保手演歌織(DN Technology & Innovation株式会社)
- 村本徹也(DN Technology & Innovation株式会社)

主催:HCD-Net研究事業部

HCD導入ノウハウ共有会

6月11日(日)

水本徹(HCD-Net副理事長/関西支部長)

主催:HCD-Net

人間工学JISハンドブック使いこなしセミナー

6月22日(木)

福住伸一(理化学研究所新知識総合研究センター/京都国立大学)

主催:HCD-Netビジネス支援事業部

7月

みんなでHCDについて話そう! HCDに関することならなんでもOK! 第3弾

7月27日(木)

「まちづくりワークショップから学ぶ参加型リサーチの課題と展望」

守友彩子

「新規事業開発担当者との交流で見えてきた、HCDで新規事業を成功させるまでの壁」

神田知典

「子供の発想から学ぶ、人と組織のバイアスを外し創造性を解放するヒント 卵から孵ったモンスターを描こう!」

竹中明教

主催:HCD-Net広報社会事業部

8月

[HCD-Net AWARD 2023]オンライン説明会

8月2日(火)

主催:HCD-Net広報社会事業部

UXデザイン連続セミナー 2023

8月26日(土)、9月2日(土)、9月16日(土)、10月1日(日)、10月14日(土)、10月28日(土)、

井登友一(株式会社インフォバーン)

主催:HCD-Net教育事業部

合宿形式で学ぶ、写真KJ法ワークショップ

8月28日(月)~30日(水)

「渾沌をして語らしめるKJ法を中核とするW型問題解決法」

國藤進(北陸先端科学技術大学院大学)

「問題提起とフィールドワークのしかた」

水本徹(HCD-Net副理事長/関西支部長)

「街づくりの課題について」

田尾友輔(SOKO KAKAKA)

溝口文美(ワンリッコービー)

主催:HCD-Net関西支部

9月

HCD-Net関西フォーラム2023 「AIと人間中心設計」

9月23日(土)

「定性調査結果分析法ワークショップ」

水本徹(HCD-Net副理事長/関西支部長)

「AIと人間 ~生成AIの登場が起こす社会変容~」

栗原聡(慶應義塾大学)

「AI全盛時代のHCD-設計すべきは人間の何をか?」

安藤昌也(千葉工業大学)

「ヒューマンフレンドリーAIとデザイナーの仕事」

黒須正明(放送大学/HCD-Net名誉理事長)

主催:HCD-Net関西支部

10月

HCD資格更新制度説明会

10月13日(金)

主催:HCD-Net HCD専門資格認定センター

CEATEC 2023 展示ブース参加(ポスター展示)

10月17日(火)~20日(金)

主催:一般社団法人電子情報技術産業協会

11月

2023年度 認定人間中心設計専門家・スペシャリスト受験を目指す方向け「オンライン相談会」

11月6日(月)、16日(木)

主催:HCD-Net HCD専門資格認定センター

HCD認定受験者説明会

11月13日(月)

主催:HCD-Net HCD専門資格認定センター

EdgeTech+ 2023カンファレンス

11月15日(水)

「人間中心が重要となるデジタル時代のシステムアーキテクチャ」

白坂成功(慶應義塾大学大学院)

大橋正司(デジタル庁)

田丸嘉一郎(一般社団法人ディペンデビリティ技術推進協会)

「自動運転のEdgeとCloudの境界を超える ~自動運転技術の社会実装に向けて:TIER IVにおけるEdgeTechのDesign~」

小島早美(和歌山大学)

仲谷尚都(三菱重工業株式会社)

「自動運転“地域モビリティ”から始める Society5.0~自動運転バス/スマートバス停~を通じた安全/安心/円滑な移動の実現~」

尾尾龍之介(BOLDLY株式会社)

田平博嗣(株式会社Ueyes Design)

主催:一般社団法人超込みシステム技術協会

HCDコンピタンス知識編「専門知識に基づく評価・概論」

11月21日(火)

伊藤泰久(DN Technology & Innovation株式会社)

主催:HCD-Net教育事業部

子供の『発想力』を鍛えるデザインワークショップ! ~盗め! 逃げる! 高層ビルからのお宝ロブウェイ大作戦~

11月23日(木)

主催:大阪芸術大学

共催:HCD-Net関西支部

2023年度冬季HCD研究発表会

11月25日(土)

河野義広(東京情報大学)

門倉諒太(東京情報大学)

後藤由翔(東京情報大学)

原田恵理子(東京情報大学)

飯尾淳(中央大学)

伊東昌子(成城大学)

渡辺めぐみ(帝京大学)

岡田麗子(独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構)

山田菊子(株式会社ソーシャル・デザイナーズ・ベース/株式会社地域未来研究所)

日下部貴彦(株式会社ソーシャル・デザイナーズ・ベース)

山崎和彦(Xデザイン研究所)

宮地良治(静岡文化芸術大学)

織田浩平(株式会社トリニティ)

佐々木俊弥(株式会社マネーフォワード)

齋藤綾乃(株式会社マネーフォワード)

山縣嘉平(株式会社マネーフォワード)

田中貴之(ニッセイ情報テクノロジー株式会社)

山岡彩実(ニッセイ情報テクノロジー株式会社)

白石一郎(Sasuke Financial Lab株式会社)

善方日出夫(富士通株式会社)

平野隆(富士通株式会社)

永野行紀(富士通株式会社)

廣澤梓(富士通株式会社)

内田奈月(富士通株式会社)

伊藤寛太郎(KakuMaru GAMES)

安野 翔平(KakuMaru GAMES)

守友彩子(日本IBM)

徳永弘子(理化学研究所)

井原雅行(理化学研究所)

村上宏樹(白川病院)

古賀昭彦(理化学研究所/帝京大学)

行平崇(理化学研究所/帝京大学)

前田亮一(理化学研究所/株式会社UDワーク)

猿渡進平(理化学研究所/白川病院)

竹下一樹(白川病院)

久野真矢(理化学研究所/県立広島大学)

本江正茂(理化学研究所/東北大学)

幸島光彦(東海大学)

木村英里子(LINEヤフー株式会社)

古谷彰彦(LINEヤフー株式会社)

齋藤万智(LINEヤフー株式会社)

井出進斗(和歌山大学)

松延拓生(和歌山大学)

藤川さき(和歌山大学)

小島早美(和歌山大学)

影山勇一(株式会社ソフトデバイス)

河瀬裕志(株式会社ソフトデバイス)

小林直人(株式会社ソフトデバイス)

金原佑樹(株式会社ソフトデバイス)

西川拓輝(株式会社ソフトデバイス)

近藤麗(鹿児島女子短期大学)

和井田理科(HCD-Net)

富崎止(HCD-Net)

渋谷友紀(札幌市立大学)

安齋利典(札幌市立大学)

柿山浩一郎(札幌市立大学)

宮川愛由(京都大学)

内野湖春(鹿児島女子短期大学)

根本大志(鹿児島女子短期大学)

横山朗(芝浦工業大学)

吉武良治(芝浦工業大学)

菊地剛正(三菱UFJ信託銀行)

高橋大志(慶應義塾大学大学院)

藤田杏珠(芝浦工業大学)

井上陽斗(芝浦工業大学)

須賀瑞希(芝浦工業大学)

神野隆成(芝浦工業大学)

綾部文人(芝浦工業大学)

平野大(芝浦工業大学)

主催:HCD-Net研究事業部



イベント一覧 2/2

12月

「パターン」で成功させるHCD組織導入

12月4日(月)

主催：HCD-Netビジネス支援事業部

エキスパートレビュー～ユーザービリティの専門知識に基づく評価を学ぶ～

12月6日(水)、16日(土)

伊藤泰久 (DN Technology & Innovation株式会社)

主催：HCD-Net教育事業部

子供の『発想力』を鍛えるデザインワークショップ!～飛んでかかないでつじさん～

12月10日(日)

主催：大坂芸術大学

共催：HCD-Net関西支部

ユニバーサルデザイン事例発表会

12月18日(月)

『幸せを運ぶデジタルアクセシビリティ』

関根千佳 (放送大学/薬科大学/株式会社ユーディット)

『ユニバーサルコミュニケーションデザインによる『わかりやすさ』の改善』

森下洋平 (一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会)

『阪急電鉄における駅づくりの工夫と課題について』

樋口大介 (阪急電鉄株式会社)

『鹿島のユニバーサルデザインの取り組み』

原利明 (鹿島建設株式会社)

『インクルーシブデザインの実践に向けて』

藤木武史 (ココロ株式会社)

『中途視覚障害者として働く～ダイバーシティ&インクルージョンの推進～』

吉川典雄 (オムロン株式会社)

主催：HCD-Net関西支部

2024年 1月

EdgeTech+ 2023オンデマンド配信

1月9日(火)～2月2日(金)

『人間中心が重要となるデジタル時代のシステムアーキテクチャ』

白坂成功 (慶應義塾大学大学院)

大橋正司 (デジタル庁)

『自動運転のEdgeとCloudの境界を超える～自動運転技術の社会実装に向けて：TIER IVにおけるEdgeTechのDesign～』

江田直紀 (株式会社TIER IV)

仲谷尚都 (三菱重工株式会社)

『自動運転“地域モビリティ”から始めるSociety5.0～自動運転バス“スマートバス停”を通じた安全/安心/円滑な移動の実現～』

堀尾龍之介 (BOLDLY株式会社)

田平博嗣 (株式会社Ueyes Design)

主催：一般社団法人組込みシステム技術協会

第12回 利用時品質談話会「美味さ」を測る～日本酒の作り込みと飲酒体験のデザイン」

1月24日(水)

『日本酒の味わい～味はどう造られるか～』

川端慎治 (上川大嘗酒造株式会社)

『味覚の科学的測定～日本酒を事例として』

松本恵子 (株式会社島津製作所)

主催：HCD-Netビジネス支援事業部

ユーザーの「心の声」を聴く技術～インタビュー調査の基本～

1月26日(金)

奥泉直子

水本徹 (HCD-Net副理事長/関西支部長)

主催：HCD-Net関西支部

2月

～ビジョンと社会実装～ HCD-Net 理事長・副理事長講演会 + 人間工学会アーゴデザイン部会 Future Experience(FX)フォーラム

2月2日(金)

『HCD-Netが提供するべきこと～人間中心設計プロセス実践と阻害要因 企業調査より～』

水本徹 (HCD-Net副理事長/株式会社島津製作所)

『「ユーザー中心」の限界を乗り越える「美」学＝感性論」的な価値創出に関する一考察』

井登友一 (HCD-Net副理事長)

『Design by Peopleの時代のHCD』

長谷川敦士 (HCD-Net副理事長/株式会社コンセント/筑波大学)

『人間中心デザイン/人間工学のコンピタンスと大学教育/学修からこれからのHCDを考える(仮題)』

吉武良治 (HCD-Net副理事長)

『HCDの現状と未来展望～インダストリー5.0への人間中心マインドの波及～』

篠原稔和 (HCD-Net理事長/ソシオメディア株式会社)

『体験実装を促進するMVPの国際的な枠組CorpeX JV～体験設計開発共同体の小ロット生産と評価でイノベーションの社会実装へ～』

高橋克実 (ホロンス株式会社)

『BtoBの社会実装の事例』

鈴木修平 (Xデザイン学校/KDDI株式会社)

『全国民が窓口行政サービスをオンラインで可能に、公共DXの社会実装に向けた取り組み』

武石惇平 (シンプレクス株式会社)

『ビジョンと社会実装 多様なアプローチと事例』

山崎和彦 (株式会社Xデザイン研究所/武蔵野美術大学ソーシャルクリエイティブ研究所)

主催：HCD-Net関西支部

共催：日本人間工学会アーゴデザイン部会

『顧客経験を指向するインタラクティブデザイン』出版記念セミナー第1回全体解説おおよび顧客体験の概念

2月5日(月)

『顧客経験を指向するインタラクティブデザイン』出版記念セミナー～全体概要～

平沢尚毅 (小樽医科大学)

『顧客経験を指向するインタラクティブデザイン』～自律システムの社会受容性に向けた人間工学国際標準～

福住伸一 (理化学研究所)

『顧客経験を指向するインタラクティブデザイン』出版記念セミナー 第1回：顧客体験の概念

鈴木和宏 (小樽医科大学)

主催：HCD-Netビジネス支援事業部

”DX”の原義と世界の先端企業の事例、およびDXを推進するアプリ等をデザインするための技術”OOUI”の基礎

2月13日(火)

『”DX”の原義と世界先端企業の事例』

篠原稔和 (HCD-Net理事長/ソシオメディア株式会社)

『DXを推進するアプリ等をデザインするための技術”OOUI”の基礎』

水本徹氏 (HCD-Net副理事長/関西支部長)

主催：HCD-Net関西支部

『顧客経験を指向するインタラクティブデザイン』出版記念セミナー第2回：アクセシビリティの最新規格情報

2月20日(火)

『顧客経験を指向するインタラクティブデザイン』出版記念セミナー 第2回：アクセシビリティの最新規格情報

橋原直樹 (清泉学院大学)

主催：HCD-Netビジネス支援事業部

3月

『人間中心のAI社会～人とAIが協調するためのHCD～』HCDビジネスシンポジウム2024 x HCD-Net AWARD 2023

3月8日(金)

『人と機械とAIの協調安全を考える』

中坊嘉宏 (産業技術総合研究所-インダストリアルCPS研究センター)

『自動運転“地域モビリティ”の取組み事例からの考察～スマートシティをいかに実現するか～』

金森亮 (名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所)

『オムロンにおける未来志向経営とデザイン』

鱈原晴彦 (自動運転“地域モビリティ”コンソーシアム/株式会社Ueyes Design)

『訪問正樹(オムロンサイニクエックス株式会社)』

「仕事のAI: AIとDXを結ぶHCD」

鈴木剛 (株式会社リコー-デジタル戦略部デジタル技術開発センター)

『パネルディスカッション』

中坊嘉宏 (産業技術総合研究所-インダストリアルCPS研究センター)

金森亮 (名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所)

鱈原晴彦 (自動運転“地域モビリティ”コンソーシアム/株式会社Ueyes Design)

舘訪正樹 (オムロンサイニクエックス株式会社)

鈴木剛 (株式会社リコー)

寺山晶子 (ソニーグループ株式会社)

モデレーター：篠原稔和 (HCD-Net理事長/産業技術科学大学/ソシオメディア株式会社)

主催：HCD-Netビジネス支援事業部、広報社会化学事業部

『顧客経験を指向するインタラクティブデザイン』出版記念セミナー第3回：知能・自律型のロボットおよびシステムとのインタラクティブ

3月11日(月)

『顧客経験を指向するインタラクティブデザイン』出版記念セミナー 第3回：知能・自律型のロボットおよびシステムとのインタラクティブ

小林大二 (公立千歳科学技術大学)

主催：HCD-Netビジネス支援事業部

『顧客経験を指向するインタラクティブデザイン』出版記念セミナー 第4回：自動運転車を受容する社会構築に纏わる行動準則

3月28日(木)

『顧客経験を指向するインタラクティブデザイン』出版記念セミナー 第4回：自動運転車を受容する社会構築に纏わる行動準則

吉田直可 (法律事務所要石山)

主催：HCD-Netビジネス支援事業部

ピックアップイベント

● ～ビジョンと社会実装～ HCD-Net 理事長・副理事長講演会 + 人間工学会アーゴデザイン部会 Future Experience(FX) フォーラム

2024年2月2日(金) 13:00-18:00 / 主催: HCD-Net 関西支部

今年のテーマは「ビジョンと社会実装」でした。前半はHCD-Net 理事長・副理事長講演会として、HCD-Net の理事長と副理事長の3名が、HCD-Net の今後についてビジョンを語りました。機構としてどのような取り組みをしていくのか、皆さんとディスカッションしました。後半はFuture Experience(FX) フォーラムと題して、アーゴデザイン部会で最先端の取り組みをされている方々から、ビジョンを描くだけでなく社会実装することの大切さを語っていただきました。

※: 詳細はサイトをご覧ください <https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2086.html>

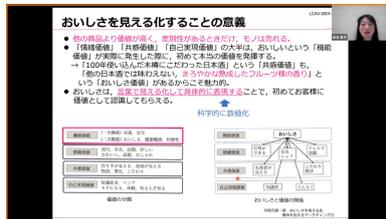


● 第12回 利用時品質談話会「美味さを測る—日本酒の作り込みと飲酒体験のデザイン」

2024年1月24日(水) 18:00-20:00 / 主催: HCD-Net ビジネス支援事業部「利用時品質」普及委員会

第12回を迎えた利用時品質談話会では、約60名の方が出席し盛会となりました。今回は、「美味さを測る」をテーマに、日本酒杜氏の考える酒質管理について上川大雪酒造の川端慎治氏、日本酒の科学的な味覚分析について島津製作所の松本恵子氏から、それぞれ話題を提供していただきました。いずれの講演も質疑応答では、参加者と講師との間で、活発な議論が交わされました。

※: 詳細は、『第12回 利用時品質談話会「美味さを測る—日本酒の作り込みと飲酒体験のデザイン」開催レポート』をご覧くださいませ <https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2092.html>



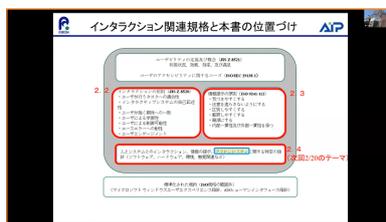
● 『顧客経験を指向するインタラクション』出版記念セミナー

- 第1回: 全体解説および顧客経験の概念 2024年2月5日(月)
- 第2回: アクセシビリティの最新規格情報 2024年2月20日(火)
- 第3回: 知能・自律型のロボットおよびシステムとのインタラクション 2024年3月11日(月)
- 第4回: 自動運転車を受容する社会構築に纏わる行動準則 2024年3月28日(木)

主催: HCD-Net ビジネス支援事業部

本セミナーは、上記新刊の主だったテーマについて著者陣により全4回にわたって解説いただき、最新のインタラクティブシステムに関する標準の理解を深める機会として企画しました。基本的なインタラクティブシステム概念として、ユーザビリティ、アクセシビリティ、顧客経験などについて解説しています。さらに、RIAS の例として自動運転車を挙げ、社会実装するための行動準則という考え方を紹介しています。

※: 詳細は、『顧客経験を指向するインタラクション』出版記念セミナー開催レポート』をご覧くださいませ <https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2099.html>



決算報告

2023年度 活動計算書（その他事業がない場合）

科 目	金 額 (円)	小 計・合 計 (円)
【A】 経 常 収 益		
1 受取会費		
正会員受取会費	14,034,000	
賛助会員受取会費	8,000	
学生会員受取会費	4,480,000	18,522,000
2 受取寄附金	0	0
3 受取助成金等	0	0
4 事業収益		
調査・研究事業収益	1,020,500	
人材育成事業収益	3,564,000	
普及・啓発事業収益	1,715,000	
開発事業収益	1,381,000	
規格化・認証事業収益	14,143,000	
国際事業収益	0	21,823,500
5 その他の収益		
受取利息	511	
雑収入	27,525	28,036
経 常 収 益 計		40,373,536
【B】 経 常 費 用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	4,004,964	
法定福利費	0	
福利厚生費	0	4,004,964
(2) その他経費		
外注費	418,208	
運営費	1,155,817	
支払手数料	300,492	
広報費	62,067	
旅費交通費	613,971	
通信運搬費	318,625	
消耗品費	484,211	
印刷製本費	156,005	
会議費	1,450	
諸謝金	7,178,070	
租税公課	992,431	
図書費	0	
雑費	115,786	11,797,133
事業費計		15,802,097
2 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	7,901,834	
法定福利費	1,480,767	
福利厚生費	13,102	9,395,703
(2) その他経費		
支払手数料	313,225	
会議費	52,159	
旅費交通費	157,395	
通信運搬費	1,140,747	
消耗品費	168,771	
印刷製本費	8,401	
運営費	12,484	
賃借料	22,440	
諸謝金	66,822	
租税公課	1,869	
委託費	1,762,000	
雑費	955,800	4,662,113
管理費計		14,057,816
経 常 費 用 計		29,859,913
当 期 経 常 増 減 額 【A】-【B】・・・①		10,513,623
【C】 経 常 外 収 益	0	
経 常 外 収 益 計		0
【D】 経 常 外 費 用	0	
経 常 外 費 用 計		0
当 期 経 常 外 増 減 額 【C】-【D】・・・②		0
税 引 前 当 期 正 味 財 産 増 減 額 ①+②・・・③		10,513,623
法人税、住民税及び事業税・・・④		70,000
前期繰越正味財産額・・・⑤		46,121,107
次 期 繰 越 正 味 財 産 額 ③-④+⑤		56,564,730

2023年度 計算書類の注記

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準 によっています。

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
棚卸資産は個別法によって評価しています。
- (2) 消費税等の会計処理
税込処理を行なっています。

2. 事業別損益の状況

(単位：円)

科 目	調査・研究 事業	人材育成 事業	普及・啓発 事業	開発事業	規格化・認証 事業	国際事業	事業部門計	管理部門	合 計
I 経常収益									
1. 受取会費	0	0	0	0	0	0	0	18,522,000	18,522,000
2. 受取寄附金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3. 受取助成金等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4. 事業収益	1,020,500	3,564,000	1,715,000	1,381,000	14,143,000	0	21,823,500	0	21,823,500
5. その他収益	15,000	0	0	0	0	0	15,000	13,036	28,036
経常収益計	1,035,500	3,564,000	1,715,000	1,381,000	14,143,000	0	21,838,500	18,535,036	40,373,536
II 経常費用									
(1) 人件費									
給料手当	133,089	0	0	0	3,871,875	0	4,004,964	7,901,834	11,906,798
法定福利費	0	0	0	0	0	0	0	1,480,767	1,480,767
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	13,102	13,102
人件費計	133,089	0	0	0	3,871,875	0	4,004,964	9,395,703	13,400,667
(2) その他経費									
外注費	0	0	142,296	0	275,912	0	418,208	0	418,208
運営費	107,614	0	574,978	473,225	0	0	1,155,817	12,484	1,168,301
支払手数料	75,112	48,765	76,774	99,841	0	0	300,492	313,225	613,717
広報費	0	0	0	62,067	0	0	62,067	0	62,067
旅費交通費	87,458	83,956	384,437	58,120	0	0	613,971	157,395	771,366
通信運搬費	20,384	22,110	154,421	0	121,710	0	318,625	1,140,747	1,459,372
消耗品費	1,990	0	9,170	0	473,051	0	484,211	168,771	652,982
印刷製本費	13,840	0	265	5,500	136,400	0	156,005	8,401	164,406
会議費	0	0	0	1,450	0	0	1,450	52,159	53,609
賃借料	0	0	0	0	0	0	0	22,440	22,440
諸謝金	16,000	2,277,526	1,375,421	199,329	3,309,794	0	7,178,070	66,822	7,244,892
租税公課	47,057	161,963	77,937	62,758	642,716	0	992,431	1,869	994,300
図書費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
寄付金支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0
委託費	0	0	0	0	0	0	0	1,762,000	1,762,000
雑費	0	0	115,786	0	0	0	115,786	955,800	1,071,586
その他経費計	369,455	2,594,320	2,911,485	962,290	4,959,583	0	11,797,133	4,662,113	16,459,246
経常費用計	502,544	2,594,320	2,911,485	962,290	8,831,458	0	15,802,097	14,057,816	29,859,913
当期経常増減額	532,956	969,680	△1,196,485	418,710	5,311,542	0	6,036,403	4,477,220	10,513,623

3. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

・事業費と管理費の按分方法

各事業の経費及び事業費と管理費に共通する経費のうち、事務局員の給料手当、交通費については従事割合に基づき按分しています。

2023年度 貸借対照表

(単位：円)

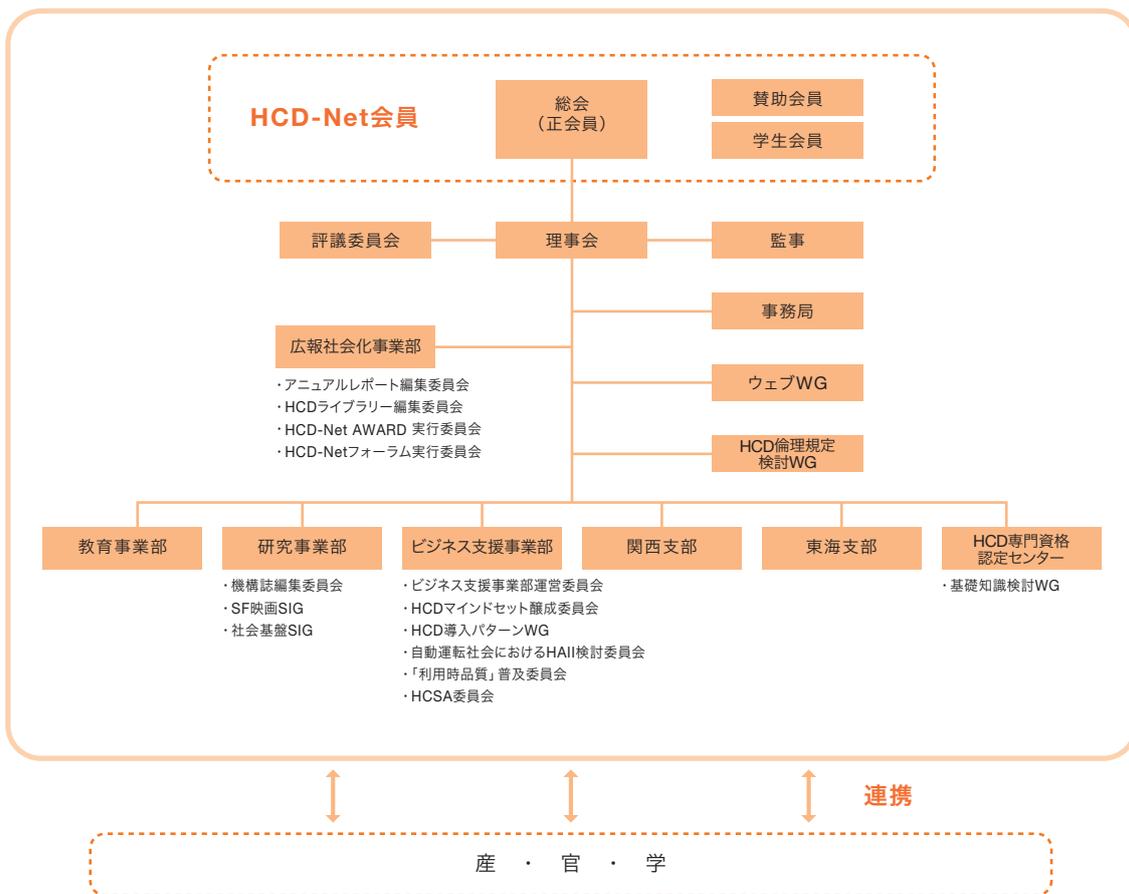
科 目	金 額	小 計・合 計
【A】 資 産 の 部		
1 流動資産		
現金預金	58,686,853	
前払金	10,248	
未収金	4,005,000	
貯蔵品	63,858	
流動資産合計・・・①		62,765,959
2 固定資産		
(1) 有形固定資産	0	
(2) 無形固定資産	0	
(3) 投資その他の資産	0	
固定資産合計・・・②		0
【A】 資 産 合 計 ①+②		62,765,959
【B-1】 負 債 の 部		
1 流動負債		
未払金	5,088,041	
前受金	951,000	
預り金	162,188	
流動負債合計・・・③		6,201,229
2 固定負債		
固定負債合計・・・④	0	0
負 債 合 計 ③+④		6,201,229
【B-2】 正 味 財 産 の 部		
前期繰越正味財産額	46,121,107	
当期正味財産増減額	10,443,623	
正 味 財 産 合 計		56,564,730
【B】 負 債 及 び 正 味 財 産 合 計 【B-1】+【B-2】		62,765,959

2023年度 財産目録

(単位：円)

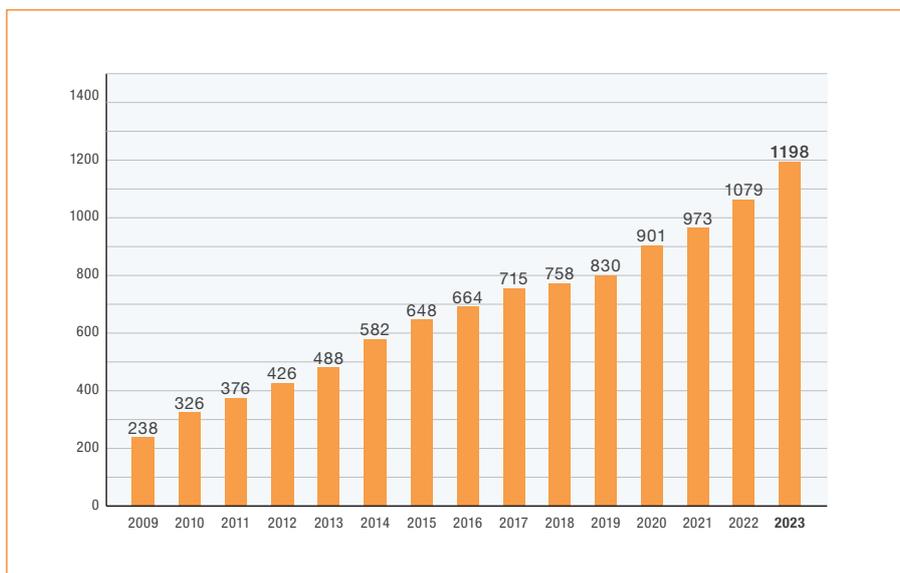
科 目	金 額	小 計	合 計
【A】 資 産 の 部			
1 流動資産			
現金預金			
普通預金 三菱東京 UFJ 銀行渋谷支店	58,084,570		
Paypal 口座	418,824		
普通預金 三井住友銀行神田支店	183,459	58,686,853	
未収金			
規格化・認証事業未収金	4,005,000	4,005,000	
前払金			
GMO サーバーレンタル料 2024年4月利用分	1,573		
GMO MICROSOFT365 2024年4月利用分	8,675	10,248	
貯蔵品			
総合パンフレット	13,351		
フォーラム景品	45,000		
機構誌	5,507	63,858	
流動資産合計・・・①			62,765,959
2 固定資産			
(1) 有形固定資産		0	
(2) 無形固定資産		0	
(3) 投資その他の資産		0	
固定資産合計・・・②			0
【A】 資 産 合 計 ①+②			62,765,959
【B-1】 負 債 の 部			
1 流動負債			
未払金			
3月分給与	1,019,989		
活動謝金	2,007,674		
認定証作成・発送費	532,580		
業務委託費	457,000		
未払消費税等	349,300		
未払法人税等	70,000		
未払社会保険料	260,298		
諸口	391,200	5,088,041	
前受金			
2024年正会員費	12,000		
2024年・2025年資格維持費	939,000	951,000	
預り金			
源泉所得税	145,188		
住民税	17,000	162,188	
流動負債合計・・・③			6,201,229
2 固定負債			
	0	0	
固定負債合計・・・④			0
【B-1】 負 債 合 計 ③+④			6,201,229
【B-2】 正 味 財 産 合 計 【A】-【B-1】			56,564,730

組織図



各事業部・センター・支部の委員一覧はこちら <https://www.hcdnet.org/organization/organization/hcd-975.html>

正会員数推移



役員一覧

理事長：	篠原 稔和 (ソシオメディア株式会社)	監事：	早川 誠二 (HCD YOROZU Consulting) 山岡 俊樹 (和歌山大学)
副理事長：	井登 友一 (株式会社インフォバーン) 長谷川 敦士 (株式会社コンセント) 水本 徹 (株式会社島津製作所) 吉武 良治 (芝浦工業大学)	【事務局】	
理事：	飯尾 淳 (中央大学) 加藤 公一 (ブラザー工業株式会社) 河野 泉 (神戸親和大学) 皿谷 知之 (株式会社ぶらすU.) 羽山 祥樹 (日本ウェブデザイン株式会社) 森山 明宏 (ユーリカ株式会社) 山口 恒久 (株式会社明電舎) 山田 菊子 (株式会社ソーシャル・デザイナーズ・ベース) 脇阪 善則 (パナソニック株式会社)	事務長：	中村 めぐみ
		認定センター事務長：	松本 恭幸
		財務担当：	篠原 稔和 (理事長)
		ウェブサイト担当：	羽山 祥樹

賛助会員一覧 五十音順 敬称略 (2024年4月1日現在)

アシアル株式会社	株式会社TAM
株式会社イード	株式会社ツルカメ
株式会社イセトー	TDCソフト株式会社
市光工業株式会社	株式会社アンソー
一般社団法人重要生活機器連携セキュリティ協議会	株式会社電通
株式会社インパス	株式会社電通総研
インフォコム株式会社	株式会社電通デジタル
株式会社エクサ	東京海上日動システムズ株式会社
SCSK 株式会社	TOPPAN エッジ株式会社
エスディーテック株式会社	凸版印刷株式会社
NECソリューションイノベータ株式会社	日鉄日立システムソリューションズ株式会社
株式会社NTTアド	日鉄ソリューションズ株式会社
株式会社NTT データMSE	株式会社野村総合研究所
株式会社NTT データ	株式会社パウワウ
沖コンサルティングソリューションズ株式会社	株式会社ファンリード
株式会社オネスト	フェンリル株式会社
オムロン ヘルスケア株式会社	富士ソフト株式会社
株式会社クボタ	富士フイルム株式会社
株式会社KDDI 総合研究所	ブラザー工業株式会社
コニカミノルタ株式会社	株式会社ミツエーリンクス
株式会社コンセント	三菱総研DCS株式会社
サイフォン合同会社	三菱電機株式会社
サンデン株式会社	村田機械株式会社
株式会社 JVC ケンウッド・デザイン	株式会社 U'eyes Design
シスメックス株式会社	株式会社ゆめみ
株式会社島津製作所	横河計測株式会社
セイコーエプソン株式会社	株式会社リーサ
ソニーグループ株式会社	理想科学工業株式会社

アニュアルレポート実行委員会

編集長：	脇阪 善則 (パナソニック株式会社)
編集：	助松 裕一 (株式会社荏原製作所) 森田 雄 (株式会社ツルカメ) 佐伯 幸治 (さらなる)
デザイン：	竹内 公啓 (PUBLIX DESIGN)

特定非営利活動法人 (NPO法人) 人間中心設計推進機構 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂4-2-12-213 ソシオメディア株式会社内

e-mail: secretariat@hcdnet.org

website: <https://www.hcdnet.org>